

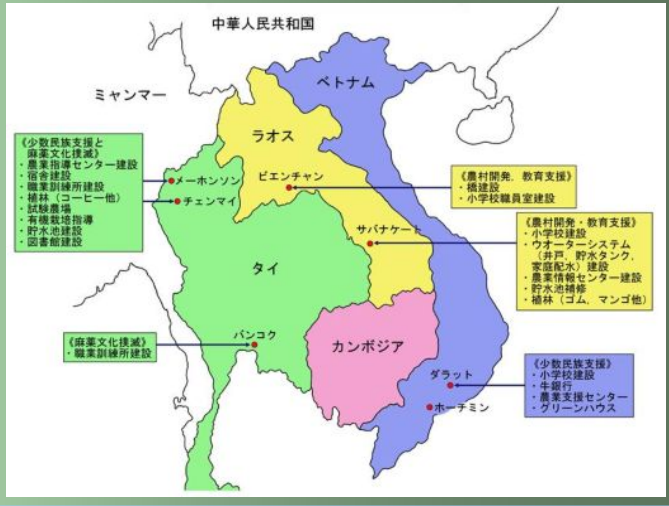


特定非営利活動法人 **アイユーゴー通信 第 20 号**

〒590-0432 大阪府泉南郡熊取町小垣内 1-10-18
TEL : 072-452-8340 FAX:072-452-5680
e-mail : snittaskmj0715@yahoo.co.jp
homepage : <http://aiyugo.fc2web.com>

目 次

- (1) マダガスカル特集
野鳥保護運動「マダ・バードプロジェクト」
「NGO さくら」って
こんな話、していますか？
平成 25 年に実施する事業
 - (2) タイ・メーホンソン コーヒー情報
 - (3) 平成 25 年事業計画
- (右 : アイユーゴーの活動地域 2001 年から 2012 まで)
その他 : 1) マダガスカル共和国(2009-10) 「アナラマンガ地方におけるパイナップルとシナモンの植栽による農村開発」
2) ベトナム・ラオス・タイ・日本の4か国医療保健・福祉



特集！マダガスカル共和国



野鳥保護運動 ～マダ・バードプロジェクト～

MDバードキャンペーン
(マダガスカルの鳥を守るキャンペーン)



ハジャニラナ
ラクトゥマナナ博士
マダガスカル共和国
アンタナナリボ大学
理学研究科 動物学科 教授
生態学者・鳥類研究家
NGO さくらプロジェクト会員

マダガスカルの鳥を守るために他国との連携システムを作る。そのためにマダガスカルの首都にあるアンタナナリボ大学の理学部教授で鳥類の専門家であるハジャ氏を中心に平成 25 年度からニュースレターを皆様に届けることになった。

Mada Birdsキャンペーンを！！

マダ・バード プロジェクト (MBP) についてご紹介する機会を頂いたことを大変嬉しく思います。マダ・バード プロジェクトは、NGO さくらプロジェクトの活動の1つです。マダ・バードとは、「マダガスカルの鳥」(マダは「マダ」ガスカルからとっています)という意味で、ロゴはこのようになっています。



近年、世界的な生物多様性調査があり、マダガスカルが世界で特に環境を保護する必要性の高い地域の1つに数えられています。急速な自然破壊によって動物たちが減少の危機にさらされており、特に環境の変化に脆弱な鳥類は、熱帯雨林の消失で深刻な影響を受けています。これらの問題に直面した今、マダガスカルでは早急に、効果的な保全対策がとられるべきだと考えられます。

鳥は人間の生活や自然環境にとって欠かせない存在であることから、私たちは彼らを環境保護活動のシンボルに決めました。鳥は自然環境において計り知れない役割を果たすとともに、人間社会においても大きな価値を持った存在です。例えば、鳥は有害な昆虫を捉え、雑草の種子を食べ、ネズミ類の大発生を抑えることで疫病の流行を防いでいます。一部の鳥は花を咲かせる植物の花粉を運び、海鳥の糞は有益な肥料となり、ダチョウやキジやガチョウの羽は装飾品に用いられます。また、鳥は人間にとって重要な食料の1つにもなっています。

このようなことからマダ・バードプロジェクトのアイデアは生まれ、人々が研究活動や教育活動などに参加する中で、鳥類を中心としたマダガスカルの特有な生物多様性の保護活動を行い、自然環境を破壊することなく持続的に共存する可能性を探っています。

このプロジェクトの大きな挑戦

アンタナナリブ大学は、中心となり鳥類学と自然史学の学術を構築していて、鳥類学および自然史学の講義を実施する、データバンクを作成する、情報の普及活動(鳥のガイドブックやニュースレターの作成など)に努める、さらに鳥の生息環境を改善するための植林活動などを行っています。



マダガスカルのアマゾン熱帯雨林

なぜマダガスカルは重要か？

マダガスカルは、現在では世界で最も保全の必要な地域のトップ10にランク入りしている。ここマダガスカルは生息する生物の多くが固有種であるというユニークな生物相にあり、その多様な環境(※世界遺産に登録されています)から、白血病や糖尿病の治療薬となるマダガスカルニチニチソウのように、病気の新しい治療薬の原料となる植物も発見されています。他の動物と同様に、鳥は植物の種子や花粉を運ぶことによってそれらの有用植物の生育を助けています。

このように、マダ・バードの活動はマダガスカルの鳥類学を発展させるとともに、マダガスカルの貴重な自然を保護するために大きな役割を担っています。

※

1990年 世界自然遺産: ツィンギ・デ・ヘマラ厳正自然保護区

2007年 世界自然遺産: アツィナナナ雨林

2010年 アツィナナナ雨林は「危険にさらされている世界遺産」のリストに登録



シナモンの若木 (実から油を抽出し葉などに加工)

「NGO さくら」って？

本会の理事長が、2007年10月に法人所轄の泉南郡熊取町がマダガスカルに救急車を寄付する事業の委託を受け、実行した。その時のカウンターパートナーであった「NGO さくら」と、その後、マダガスカルの農村地域の生活改善、子供たちの教育、環境保護などを共に考え、支援活動を行ってきた。2008年から2011年までそれぞれ3回渡航し、桜のメンバーと密接に交流を図ってきた。彼らは日本の大学に留学した経験のある大学教授たちである。

こんな話、知っていますか？

「鳥の渡りや学習能力、その特徴的な行動に関する科学的データを分析、総合したところ、そうした科学的発見から、次のような意外な結論が導き出されることが分かった。

1. 鳥類は、音楽的能力(鑑賞力、作曲力、演奏力や抽象的概念を生み出す能力、絶えず変化する生活上の問題を、知能を柔軟に用いて解決する能力、喜んで遊び、つがう能力など、私たち人類が自分たち独自のものと同然のように考えている能力を、少なからずもっている。
2. 人間は、いくつかの方面の能力(たとえば抽象的、言語的能力)では鳥よりも優れているが、鳥も、多方面の能力(たとえば、わたりの能力)では、人間よりも優れている。
3. 鳥は、知能や意識や意志をもっているばかりでなく、人間との知的なコミュニケーションをし、人間との間に、思いやりのある親友という関係を築く能力を持っている」

こんなことについて具体例を挙げて紹介している本があります。『もの思う鳥たち 鳥類の知られざる人間』です。

セオドア・ゼノフォン・バーバー著 日本教文社



※※※※※※※※※※※※※※※※

平成25年度に実現する事業

1. マダガスカルの高原地帯における土砂崩れの自然災害を防ぐための植樹による整備事業

(緑の募金様からの助成金)

事業地: マダガスカル、フィハオナナ村

事業概要:

土砂崩れならびに土砂の流出を防止するために植林を行う。事業地は、森林伐採が繰り返されて草原地帯となったところである。現場は地滑り、地割れがいたるとこ

ろにみられ、土砂崩れが頻りに繰り返されたことが分かる。こうした現象を食い止めるために草原の整備並びに森林再生に向けた植樹を行う。



※※※※※※※※※※※※※※※※

具体的な内容は、以下の通り、

- 1) 植樹方法は、2mから3mの間隔に四角形のユニットを設定し、そこに数本ずつ混植する。・その利点：ユニット方式は平原特有の強風による根返りや幹折れを防ぐことができる。
- 2) Paulownia と Intsia など絶滅に瀕している樹木を中心に植え、住民の要請によりアカシア (Acacia) や換金作物となるオレンジ、コーヒーなどを植える。
- 3) 自然火災の拡大防止のための防火帯を作業道として活用する。絶滅にひんする自生種を植樹することで、植樹現場の周辺の表土層を確保し、保水力を高め、土砂崩れや流出を防ぐことにより、かつての森林の再生に向けた整備を行う。そして、ともに活動する村人とともに植樹を推進することにより、森林再生、地球温暖化に貢献する足がかりを共有できるものとする。

2. マダガスカルの村における小学校建設事業

(公財)ひろしま祈りの石国際協力財団様からの助成金)

- 1) 事業地: アンボヒダヴァ村は、マダガスカルの首都アンタナナリボから北へ280kmに位置する。
- 2) 目的: 小学校低学年と幼稚園児識字教室の教室ならびにトイレを建設する。
- 3) その結果: 現地の小学校は1960年に5教室を建設した。しかし、建材の質が極めて悪く、1992年に2教室を再建した。残りの3教室は現在ほとんど使用できない状況で、分散した状況での教育が強いられている。新たに教室が建造されると、年少の子供たちが分散登下校から解放され、集中して勉強ができるようになる。

3. マダガスカルでの井戸掘りと健康に強い村づくり

(公財)日本国際協力財団様からの助成金)

- 1) 事業地: アンボヒダヴァ村
- 2) 受益者: 人口4,000人(12歳以下の子供は1072人) 少数民族(シハナカ、メリナ)
- 3) 目的: 村に井戸を造成し、村の子供たちが丈夫に育ち、大人たちも健康で働ける「水」の環境を整備することにある。井戸の水を徹底的に管理することにより、子供たちに水の

大切さを教え、新しい「水」による新しい村づくりを行う。遠い先には、専門家を派遣して、また、日本とマダガスカルの農業専門家の交流を通じて、農業ができるパイロットファーム、農業ができるように指導が可能な農業指導センター建設、その周辺に換金樹木を植樹して環境再生を図り、村人たちに色とりどりの自然を享受できる村づくりを目指したい。

4) 事業目標:

- 1) 村人が、専門家(井戸会社の社員)から井戸造成の技術指導を受け、共同して井戸を造成すること。
- 2) その井戸の水の利用料を招集することで管理システムを構築すること。
- 3) 保健所を訪ねる人の健康状況を調べ、井戸「水」の効果を実証する。
- 4) 村人の労働意欲に変化をもたらしたい。

4. MDバードキャンペーン (マダガスカルの鳥を守るキャンペーン)

マダガスカルの鳥を守るために他国との連携システムを作る。そのためにマダガスカルの首都にあるアンタナナリブ大学の理学部教授で鳥類の専門家であるハジヤ氏を中心にニューズレターを皆様に届けることになった。(今回は通信にて紹介)



ーアナラマンガ地方の人たちが育てたパイナップルー

タイ・マーホソン コーヒー最新情報

今年から本会の理事に就任した現在バンコク在住の和田理事が、先日、タイのマーホソン県の農業支援センターのセンター長のソムヨツツ氏にバンコクで会いました。ソムヨツツ氏から以下の情報を得ました。



ソムヨツツ氏

収穫回数：年2回
収穫高：15,000kg(各1回)
販売所：チェンマイにて
価格：180 Baht(540円)
輸送費：5000B ・15,000円農業支援センター〜チェンマイ自動車で6時間

品質検査：チェンマイ大学にて

販売先：HILCORPS社

さらに、今後の商談：タイ現地法人のUCCとHISに持って行き品質と販売可能か商談（和田理事担当）今後、管理をどのように進めるか、本会の担当を決めて、ソムヨツ氏をサポートしていきます。

2012年度事業会計収支計算書について

2012年度 特定非営利活動に係る事業会計収支計算書 特定非営利活動法人 アイユゴー (平成24年4月1日～平成25年3月31日)	
科 目	決算額 (単位 円)
I 収入の部	
1. 会費収入	
法人会費	150,000
正会員	360,000
賛助会員	38,000
2. 募金・寄付金収入	
一般寄付	848,680
3. 自主事業収入	193,330
4. 助成金収入	
ひろしま祈りの石	1,500,000
国土緑化推進機構	1,300,000
6. 雑収入	
マダガスカル植林現地負担	100,000
収入合計 (A)	4,490,010
II 支出の部	
1. 事業費	
資機材費	2,882,717
現地スタッフ経費	518,406
スタッフ・専門家派遣経費	533,905
2. 管理費	
事務所管理費	426,121
交通費	24,830
宿泊費	4,200
会議費	14,030
経常支出合計	4,404,209
経常収支差額	85,801
III その他の資金収入の部	
1. 受取利息	
普通預金利息	102
2. その他の事業会計からの繰入	0
その他資金収入合計	102
IV その他資金支出の部	
その他資金支出金額	0
当期収支差額	85,903
前期繰越収支差額	-410,205
次期繰り越し収支差額	-324,302

2013年度事業計画

2013年度事業計画 特定非営利活動法人 アイユゴー	
教育支援事業	
1) マダガスカルの子供たちのための小学校建設	
2) ベトナム都市化による交通事故防止のための教育	
3) 途上国の子供たちと日本の子供たちとの絵画の交流	
農業地域開発事業	
1) マダガスカルにおける井戸建設(3基)	
2) マダガスカルにおける貧困撲滅のための農業指導センター建設	
3) ベトナムにおける薬草の植栽(生態性保護活動)	
環境保護事業	
1) マダガスカルの環境保全のための植栽活動	
2) MD(マダガスカル)バードキャンペーン	
3) 年2回のニュースレターの発行	
国際協力事業へのアドバイザーとしての参画事業	
1) 津山国際交流の会の海外事業への参画	
2) 神戸大学大学院保健学研究科との共同事業	
3) 近畿大学総合社会学部との共同事業	
自主事業(現地の自立のための事業)	
(現地の自立のための事業化)本会の事業地の検証と、文化・技術を通じた交流。	
1) タイ	
2) ベトナム	
3) ラオス	
4) マダガスカル	

【感謝】

(特活) アイユゴー通信をご覧いただき、誠にありがとうございます。私たちは、自らの知識・技術・経験と奉仕の精神を持って、協力を必要とする人たちの自立を目指した開発援助を通じて、その地の文化を尊重理解し、草の根の友好親善と、自らの人間としての価値を高めることを目的とし活動します。貧しい人たち、困った人たちがいれば、その人たちのそばに行ってみませんか。そして、何かできることがあれば、自分でしてみませんか。皆様のご参加・ご協力を心からお待ちしております。

e-mail: snittaskmj0715@yahoo.co.jp

HP: <http://aiyugo.fc2web.com>

【振込先】

[特定非営利活動法人 アイユゴー 理事長 新田幸夫]

三井住友銀行 阿倍野支店 : 7,479,470

ゆうちょ銀行 : 00930-9-144252

発行: 新田幸夫 編集: 加藤鐘三 印刷: (株) フジカク